

令和8年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視 点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (〇月〇日実施)	総合評価（ 〇月 〇日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教 育 課 程 学 習 指 導	①主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着と向上を図り、他者と協働する力や課題解決力を身に付けさせる。 ②多様な学習機会を提供し、看護・福祉の専門教育の充実を図り、将来の職に求められる資質・能力を育む。	①・確かな基礎学力の定着と向上に向け、ICTの利活用を取り入れた主体的な学びや探究的な学びを柱として組織的に授業改善に取り組む。 ②・外部機関と連携した学びや体験学習や実習など多様な学習機会を提供し、普通科での取組と専門教育の充実を図り、将来の質の高い進路実現を目指し学力の育成を行う。 ・普通科における多様な進路の実現のための学びの充実にむけ、教育課程の側面から支援する。	①・主体的かつ探究的な学びの視点を取り入れたテーマで研究授業を実施し、深い学びにつながるICTの効果的な利活用の方法やグループワークについての実践事例を共有し積極的に実践する。 ・定期的な相互授業見学と教科会の実施により、授業力の向上を図る。 ・朝学習の継続的な実施により、生徒の基礎学力の定着と主体的に学ぶに向かう姿勢を強化する。 ②・各専門科で病院や施設などの外部機関と連携し、目標に沿った校外実習や講演会を実施する。 ・多様な進路実現に向け、選択科目等の時間割シミュレーションを行う。	①・教科会を柱に組織的に授業改善に取り組めたか。 ・授業力の向上に向けて職員間で見学や協議を行ったか。また、生徒による授業評価のICT利活用の項目において、評価4または3の回答が80%以上となったか。 ・朝学習を組織的かつ計画的に運用できたか。 ・授業見学の実施総数が前年度を上回ったか。 ②・小テストや定期考査、外部模試等の結果において、基礎的な学力の向上が見られたか。 ・選択科目等の時間割シミュレーションを行うとともに、選択科目説明会やガイダンスを実施し、生徒が進路実現に向けた科目選択をすることができたか。					
2	生 徒 指 導 ・ 支 援	①部活動や行事、日常生活指導を通して、社会規範や責任感・連帯感を培い、自主自律の姿勢を育む。 ②組織的な教育相談体制を確立し、生徒一人ひとりの状況を把握し心に寄り添い、安全安心な学校生活を確保する。	①・部活動や行事などの生徒主体の活動を充実させ、生徒自ら考え行動する力や協働する力を育む。 ②教育相談コーディネーター、生徒支援グループを中心に 学年、SC・SSW・SMと連携し、教育相談体制を確立する。 ・日常生活指導を通して、社会規範を身に付けさせ自主自立の姿勢を育む。	①・委員会や学校行事において、生徒1人ひとりが責任感を持ち、主体的・協働的に活動し、活動内容を発信できるように支援する。 部活動では、日々の活動を活性化し、その成果を大会や発表会で示せるように支援する。 ②円滑な情報共有による組織的な教育相談体制の構築に向け、研修を実施し、職員のスキル向上を図る。 ・頭髮服装指導、遅刻指導を組織的に実施し、生徒の規範意識の向上を図る。	①・各委員会において生徒が主体的に活動するとともに、その内容を校内外に発信できたか。 ・部活動の活動状況（日数・内容・大会参加など）が活性化したか。加入率は上昇したか。 ②円滑な情報共有により、課題を抱える生徒への支援を組織的かつ迅速に実施できたか。 ・職員研修の成果を生徒対応に生かすことができたか。 ・頭髮服装指導、遅刻指導の対象生徒の割合は減少したか。					
3	進 路 指 導 ・ 支 援	①自らのキャリア発達を意識できる3年間の進路指導の充実を図り、自己の希望に即した進路実現を図る。 ②「看護の心」「福祉の心」「奉仕の心」を育み、看護・福祉等分野のよき担い手として活躍できる人材を育てる。	①生徒一人一人の個性を伸ばし、自らの在り方や生き方を深く考察する機会を創出することで、納得度の高い進路選択を実現する力を養う。 ②人間への深い理解に基づき、変化する社会と主体的に向き合う力を育む。 ・多様な進路に応える学校として、教育の機会均等と公平性に配慮しつつ、産業構造の変容を見据えた戦略的な人材育成を推進する。	①キャリアパスポート等の活用により、生徒との対話時間を十分に確保し、自ら適切な意思決定を行える力を育成する。 ②ガイダンスの充実や地域の教育資源との連携を図ることで、生徒の長所を伸ばさせ、探究的・実践的な学びを深化させる。 ・AI等のデジタル技術を効果的に取り入れ、生徒が自らの成長を可視化し、内省に繋げられる学習環境を整備する。	①教員による指導やガイダンスを通じて、自らに適した学習方法を習得・実践し、主体的に納得のいく進路形成に取り組めたか。 ②インターンシップや「仕事の学び場」、1日看護体験等の外部活動に積極的に参加し、その経験を自身の進路選択や模試の結果に結びつけられたか。 ・社会課題の解決を自分事として捉え、将来のキャリア形成に向けた展望を具体的に描けるようになったか。 ・卒業時の進路決定率は98%以上か。					

	視 点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (〇月〇日実施)	総合評価（ 〇月 〇日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地 域 等 と の 協 働	①地域に親しまれ信頼される学校となるよう広報活動に力を入れ取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ②地域と連携した防災活動や地域のイベントへの参加等を推進し、生徒の社会参画の意識を醸成する。	①信頼される学校を目指し、様々な媒体を利用した本校の特色の紹介を通して学校案内等の充実に取り組み、開かれた学校づくりを推進する。 ②・生徒主体学校行事や部活動・ボランティア活動など小・中学校や地域と連携・交流する機会を増やす。 ・防災活動や交通安全など地域や保護者と連携した取組の推進を図る。	①従来の広報活動の成果と課題を踏まえて内容を見直すとともに、学校の魅力や特色を広く発信することを目指して企画・運営を行う。パンフレットやチラシの充実を継承しつつ、HPやInstagramなど視覚的媒体も活用する。 ②オープンスクールの時期を見直し、昨年度の課題を踏まえて改善を図りながら企画・運営を行う。地域に開かれ信頼されるとともに、受検生から注目される学校を目指す。 ②・文化祭運営委員会を中心に、活発で内容の充実した文化祭を企画・運営し、本校の魅力を地域の皆様に発信する。 ・地域と連携して避難訓練等防災活動を実施し防災体制の充実を図るとともに、生徒の防災意識を高める。	①・本校の体験授業や学校説明会等への参加者数、および入試における志願者数は増加したか。 ・HP やInstagramの更新回数は2割以上増加したか。 ・学校案内やチラシ、HP、Instagramなどの内容が分かりやすく、視覚的に魅力あるものになっているか。 ②開催時期の変更が、参加しやすさの向上やターゲット層の動向に合致していたか。アンケートで肯定的回答は7割以上か。 ②・文化祭などの学校行事の来校者数は増加したか。 ・部活動やボランティアなどの校外の活動が活性化したか。 ・避難訓練や防災活動が計画的に実施され、想定に基づいた実践的な内容となっているか。					
5	学 校 管 理 学 校 運 営	①令和7年度からの学科改編に伴い、看護・福祉・普通科3科の教育活動が充実・発展するよう全職員で取り組む。 ②情報管理を徹底し、事故・不祥事防止を徹底する。 ③働き方改革を進め風通しのよい職場づくりに取り組む。	①令和9年、全学年において普通科・福祉科がそろうことにより生じる課題を整理・明確化するとともに、その解決に向けて組織的に取り組む。 ②計画的な職員研修を実施するとともに、マニュアル等の見直しを通して点検体制の強化を図り、事故・不祥事防止を徹底する。 ③意見交換や情報共有がスムーズに行われ、主体性をもって働くことができる職場づくりを目指すとともに、業務の精査および効率化を通じて、さらなる働き方改革を推進する。	①・複数学科が連携して円滑に教育活動を進められるよう、情報共有や会議を計画的に実施するとともに、事務室と連携して設備・備品等の教育環境の整備・拡充を進める。 ・「特色ある普通科」としての魅力やアピールポイントを検討する。 ②年間計画に基づく職員研修や、幅広いテーマを扱うミニ研修を実施するとともに、マニュアルの定期的な見直し、チェックリストによる点検を通して、事故不祥事防止を徹底する。 ③・意見交換や情報共有が円滑に行われるよう、会議運営の工夫やICTの活用を進めるとともに、対話と主体性を重視した組織づくりを推進する。 ・職員の業務負担軽減に向け、業務アシスタント・ICT サポーター・業務サポーターに移譲できる業務範囲を広げるとともに、学校家庭連絡システム「すぐーる」の様々な機能を活用する。	①・教育活動に関する各種アンケートや生徒による授業評価の集計結果から、教育活動を円滑に実施できたかを検証する。 ・学科改編に係る諸課題の解決を図るとともに、設備や備品等の教育環境の整備を進めることができたか。 ・『特色ある普通科』としての魅力やアピールポイントを明確化し、その強みを職員間で共有できたか。 ②・職員研修の事後アンケートで、意識向上につながったという肯定的回答は7割以上か。 ③・衛生委員会が実施する職場改善アンケートの関連項目の結果は、改善傾向にあるか。 ・職員対象ストレスチェックの関連項目の結果は、改善傾向にあるか。 ・業務アシスタントやICTの活用を通して、時間外長時間勤務は改善されたか。					